



年 組 名前

道新ワークシート

旧双葉幼稚園園舎(帯広)重文指定へ



赤色のドーム屋根が特徴の旧双葉幼稚園の園舎

国の文化審議会は19日、赤いドーム屋根が特徴で国の登録有形文化財に指定されている帯広市の旧双葉幼稚園の園舎など10件43棟の建造物を重要文化財に指定するよう松野博一文部科学相に答申した。近く官報に告示され、建造物の重要文化財(国宝を含む)は2474件4935棟(うち道内は29件66棟)となる。

文化審議会 10件答申

2013年に閉園した双葉幼稚園は、1911年(明治44年)に帯広で初の幼稚園として開園。木造平屋建ての園舎は2代目園長の故臼田梅さんの設計で、22年(大正11年)に建てられた。赤いドーム屋根の下に天井まで吹き抜けの八角形の遊戯室を設け、四隅に教室を配置。遊戯室の高窓から明るい光が差し込む開放的な構造となっている。

答申は「球形、四角形、三角形などの基本図形を用いた明快かつ独創的な意匠でまとめられている」とし、大正期に建てられた園舎として希少で、高い価値があると評価した。

重要文化財にはこのほか、近代日本の住宅建築の傑作とされる「聴竹居」(京都府大山崎町)や、「白峯寺」(香川県坂出市)なども指定される。

2017年5月20日朝刊社会面(記事は再編集しています)

①旧双葉幼稚園が重要文化財に指定される理由は何ですか。

②この園舎が建てられた1922年頃の日本は、どのような時代でしたか。